

## きちんとした躰(しつけ)とは

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。先週、若いお母さんが車中に小さい子供をおきざりにして食事をしていたこととお話しました。このようなことはよくあるようです。放送をお聴きの皆さんも、おかしいなと思うことがあったらその人に注意をしていただきたいと思います。おかしいことはまだありました。先日、そば屋に行った時、小さいお子さんがスパゲティーのようにフォークでそばを食べていました。驚きましたね。また、別の日にそば屋に行った時は、若い夫婦が赤ちゃんのオムツをテーブルの上で替えていました。そしてその後、そのテーブルの上でハイハイをさせているのです。周りのお客、店の人、私はびっくりしましたが、注意できませんでした。私もここで注意しなかったことを反省しています。注意の言葉はとても言いにくいものです。どうしたらよいかを考えたいと思います。

躰(しつけ)とは、美しい立ち居振る舞い、敬語表現を含む言葉遣いですが、これを教えるのは家庭であるというのが私の基本的な考えです。書店で、草思社出版の「あたりまえだけどとても大切なこと - 子供のためのルールブック」という本を見つけました。著者は、ロン・クラークというアメリカの先生です。彼は大学卒業後、ハーレムの学校から優秀な人材を多く育てました。その功績が認められ、3年くらい前の28歳の時にウォルト・ディズニー社主催の全米最優秀教師賞を受賞しました。ロン・クラークは、子供のために50くらいの基本的ルールをつくりました。大人の質問には礼儀正しく答えよう。相手の目を見て話そう。誰かが素晴らしいことをしたら拍手をしよう。人の考えや意見を尊重しよう。勝っても自慢しない。負けても怒ったりしない。誰かに質問されたら、お返しの質問をしよう。くしゃみやせきは、口をふさいでしよう。何かを貰ったら、3秒以内にお礼を言おう。貰ったプレゼントに文句を言わない。人の成績を言いふらさない等です。このようなものを参考にしながら躰について考えるのも、大人の大事な勉強だと思います。子供たちも、自身で美しい立ち居振る舞い、敬語表現を含む言葉遣いについて考えてほしいと思います。